

An aerial photograph of an archaeological site, showing various excavated structures and features. A blue rectangular box is overlaid on the right side of the image, containing the title text. The background image shows a complex of earthworks, including a large rectangular enclosure on the left and a circular feature in the lower right.

Ⅲ 平城宮跡等の調査概要

表25 2017・2018年度 都城発掘調査部（平城地区）発掘調査一覧

調査回数	調査地区	遺 跡	調査期間	面 積	調査地	担当者	調査要因	掲載頁
(2017年度)								
592次	6ALB-K	平城宮東北官衙地区	2018.2.14～2.27	154㎡	奈良市法華寺町	丹羽崇史	住宅建設	126
595次	6ALQ-H・Iほか	平城宮東院地区	2018.1.22～7.13	1512㎡	奈良市法華寺町	桑田訓也 海野 聡	学術調査	128
596次	6BFK-G・H	法華寺旧境内	2018.1.10～1.18	52㎡	奈良市法華寺町	丹羽崇史	住宅建設	166
597次	6BSD-O	西大寺旧境内	2018.2.20～3.30	156㎡	奈良市西大寺小坊町	浦 蓉子	住宅建設	170
(2018年度)								
598次	6AFC-E	平城京左京一条二坊十五坪	2018.5.15～5.16	25㎡	奈良市法華寺町	国武貞克	住宅建設	182
599次	6ABA-E	平城宮内裏北外郭官衙	2018.6.21～6.29	93㎡	奈良市佐紀町	岩戸晶子	住宅建設	
600次	6BTG-K	東大寺東塔院	2018.7.2～12.21	885㎡		芝康次郎	学術調査	184
601次	6BFK-E・F	平城京左京二条二坊十五坪	2018.7.5～9.3	526㎡	奈良市法華寺町	小田裕樹	住宅建設	190
602次	6AAU-Aほか	平城宮東区朝堂院	2018.10.1～2019.1.21	560㎡	奈良市佐紀町	福嶋啓人	学術調査	146
603次	6BKF-J	興福寺旧境内	2018.10.12～10.31	134㎡	奈良市登大路町	桑田訓也	建物建設	
604次	6BFK-G	法華寺阿弥陀浄土院	2018.11.5～11.12	30㎡	奈良市法華寺町	丹羽崇史	住宅建設	206
605次	6AFC-G	平城京左京一条二坊十坪	2018.11.21～11.30	21㎡	奈良市法華寺町	浦 蓉子	住宅建設	
606次	6AFJ-H	平城京左京三条一坊十六坪	2018.12.4～12.13	31㎡	奈良市二条大路南	桑田訓也	建物建設	
607次	6ASB-C	平城宮北方遺跡	2018.12.19～12.21	67㎡	奈良市佐紀町	丹羽崇史	住宅建設	
608次	6ACO-O	平城宮跡	2018.12.13～12.20	28㎡	奈良市二条町	山本祥隆	住宅建設	
609次	6BKF-D	興福寺旧境内	2019.2.7～3.22	51㎡	奈良市登大路町	庄田慎矢	公園整備	
610次	6AGT-E・F	平城京右京北辺北方遺跡	2019.2.18～2.27	47㎡	奈良市西大寺北町	神野 恵	住宅建設	

表26 2017・2018年度 都城発掘調査部（平城地区）小規模調査等の概要

調査回数	遺 跡	調 査 の 概 要
599次	平城宮内裏北外郭官衙	個人住宅建設にともなう発掘調査。南北11m、東西8mの調査区を設定。調査区東南角で市庭古墳前方部の西辺と認識される南西から北東に向かう地山の落ちを検出。現地表下約40cm、標高74.3m。周濠は現地表下1.5mまで確認した。また、調査区全面に広がる奈良時代の整地土と礫集中を検出した。標高74.0～74.2m。
603次	興福寺旧境内	公共トイレの建て替えにともなう事前調査。調査地は興福寺南大門東門守屋およびその東に位置する築地塀の西雨落溝にあたる。調査区は東西約9.7m×南北約13.7m。遺構検出は、現地表下10～80cm（標高93.4～94.2m）の黄褐色砂質土もしくは明褐色粘質土上面でおこなった。近代以降に属するとみられる土坑のほか、顕著な遺構は確認されなかった。
605次	平城京左京一条二坊十坪	個人住宅建設にともなう調査。南北3m、東西7mの調査区を設定。遺構検出は明褐色砂質土上面（L=72.75～71.75m）及び明黄褐粘質土上面（L=71.37～72.00m）で起こない西から東へ地形が落ち込む様子を確認した。遺物が希薄で、古代の遺構と認識しうるものは検出しなかった。
606次	平城京左京三条一坊十六坪	集会所建設にともなう事前調査。調査地は左京三条一坊十六坪の中央西端にあたる。調査区は東西3.5m×南北9m。遺構検出は、現地表下60～65cm（標高61.60m前後）の灰黄色砂質土（整地土か）上面で起こない、奈良時代のものとみられる南北溝1条・土坑1基などを検出した。
607次	平城宮北方遺跡	個人住宅建設にともなう事前発掘調査。調査区は東西8.1m、南北8.1m。現地表下0.3～0.4m、標高約77.4mの橙黄色砂質土上面で遺構検出をおこなった。時期不明の土坑を1基検出したが、奈良時代の遺構や市庭古墳に関連する古墳時代の遺構は確認されなかった。遺物は時期不明の土器片、平瓦がごく少量出土したのみである。
608次	平城宮跡	個人住宅建設にともなう事前発掘調査。調査地は平城宮跡西北部にあたる。東西約7.5m、南北約6mのL字型の調査区を設定した。現地表下0.6～0.7m、標高69.4～69.5mほどで中世の整地土とみられる褐灰色砂質土層を、その5～10cm下層で古代の整地土とみられる暗灰黄色砂質土層を確認し、それぞれの上面で穴や小穴数基、溝数条などを検出したが、顕著な遺構は認められなかった。遺物は、土器片や瓦片などがごく少量出土した。

表27 2018年度 都城発掘調査部（平城地区）現場班編成 ※総担当者

春	夏	秋	冬
国武 貞克（考古第一）	※芝 康次郎（考古第一）	浦 蓉子（考古第一）	庄田 慎矢（考古第一）
山藤 正敏（考古第二）	小田 裕樹（考古第二）	丹羽 崇史（考古第二）	神野 恵（考古第二）
岩戸 晶子（考古第三）	今井 見樹（考古第三）	林 正憲（考古第三）	
馬場 基（史料）		桑田 訓也（史料）	※山本 祥隆（史料）
※海野 聡（遺構）		※福嶋 啓人（遺構）	前川 歩（遺構）
		松永 悦枝（研修）	
総括：副部長 渡邊 晃宏		写真担当：企画調整部写真室	